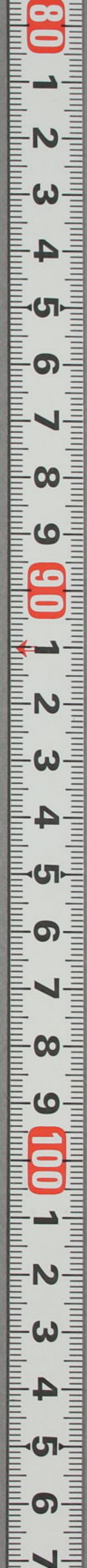




釋曆



服部文庫
117
414





運氣

此二記ス所ハ延享五年戊辰ノ年ノ曆ヲ用ユイツレノ干支ニ
アタルト云フトモ此ニ列シテ知ルヘシ矣端ニ

延享五年つちのえ乃貞享曆 翼宿凡二百八十四日

戊辰年ノ曆ハ貞享曆ヲ以テ推歩スルト云フ一之翼宿カクイッ
ワリ書ニシタルハ二十八宿ヲ年ニ配分スレハ戊辰年ハ翼宿ニ
尚カトイフ一ヲ知ラシメントテ翼宿值年ト誌ス值ハ逢トヨムシカ
レハ翼宿カ辰年ニ值ト云フ一凡二百八十四日是ハ

日救ナリ今年八月有ルユハ九日多ク八月無ク年ハ三十五
四日式ハ五日ト記セリ

「大さいころの方」

此方小むくして方より
世本とさうす

大歳神ハニ向テ造作移花業ヲ求メ諸事大吉也故テ木ヲ伐
ナカレハ大歳ハ歳星ノ精ナリ歳星ハ木星ノ別名ナリ故ニ
タツノ方ニ向テ木ヲ伐ラスト云リハ星天地ノ間ニ降リ方物ヲ
觀察シ八方ヲ臨見シ故ニ歳ノ男ト名ク慎トキハ吉ヲ保チ
逆フ時ハ区フト更ニ凶事ヲ犯スヘカラスハニ向ヒ凶事ヲナセハ
疫病起ルナリト云ヘリ則牛頭天皇第一ノ皇子也

「大さくくぬの方」

ことくくぬの方
三年ふさぐり

大將軍ハ方ニ向ヒ方事深ク恐ルハ是ヲ忽ニスルトキハ
禍災道ルヘカラスハ大將軍ハ太白ノ精ナリ太白ハ金星ノ
別名ナリハ星上客大紫微宮方伯ノ神ナリ紫微宮ト
云フハ北極星ヲ取廻シタル上規ノ星ノ名ナリ上規トハ
常ニ地上ヲメクル星ヲ云フ又曰西方ノ星金星ノ精ナリト
アリ西方ハ四季ニ配合シテ五行ニテ金ニアタル是裁断ヲ
主トシ故ニコレヲ犯スモノハ必ス殃ヲ受ルト也○ソレハ方
ニテ居礎柱立上棟修造移花嫁娶竈陰掘井

出軍 葬壇 紀去 百中ニコレヲ犯シ用ユレハ大凶ナク○大將軍東
方ニ在レハ只卯ノ方可忌之寅甲乙辰ノ四方不可忌之往昔ノ
説也先哲ノ曰ク卯ニ在ハ寅甲乙辰ノ四神俱ニ相兼可忌之
余方皆ホリト又二千三支ヲ可忌ト二千東方ノ甲乙三支
ハ寅卯辰也○遊行ノ時心方一辰ヲ忌ヘシ假令東方一辰ニ在ハ
正卯ヲ忌ニテ甲乙寅辰ハ不可忌一寸モ相遠也ハ可忌ト云々

△大將軍遊行ノ方

○春甲子ヨリ五日東方ニ在 ○夏丙子ヨリ五日南方ニ在
○秋庚子ヨリ五日西方ニ在 ○冬壬子ヨリ五日北方ニ在

○五月戊子ヨリ五日中央ニ在

家内ノ一ニ

右遊行五日ノ間大塞ノ方タリトイヘトモ終造イタスニ咎ガレ
但五日ノ間ハ其方犯スヘカラス澄然惶ク不可慢之ト云ヘリ
私云大フサカリトハ其年ノ塞ヲ云フ一方ニ三年宛イマレテ
十二年ニテ東西南北四方ヲ廻リテホキ師傳ニ大將軍ノ
方タリトイヘトモ天道神天德神歲德神ノ方ニ尚ラハ押テ
用ユヘシ咎ナシト可秘々則牛頭天皇乃ニノ皇子也

○天道神ノ所在ノ月ハ諸事ニテ方ヲ用ヒテ大古方倍ノ方ナリ
假令金神大將軍ノ方ニ相尚ルトイヘトモ天道天德歲德神在ノ

月年ハ押テ可用之ト云。○天德神所在ノ月モ天道神ニ推ス

△天道神ノ方 南坤北西 乾東北 艮南東 巽西

△天德神ノ方 丁坤 壬辛 乾甲 癸浪 丙七 巽庚

○天德神ノ方十干天道神各當リ曆ノ九星ニテ見ルヘシ

△歲德神ノ方 ○甲己歲在甲方 卯ノ間 ○乙庚歲在庚方 酉ノ間

○丙辛歲在丙方 巳ノ間 ○丁壬歲在壬方 亥ノ間

○戊癸歲在丙方 午ノ間

歲德神六十干ニ應テ一ヶ年在一曆ノ九星ニテ十干ヲ見ルヘシ 前ノ二神ハ一ヶ月宛在ス三神トモニ方代不易ノ所在ナリ

大あんどうの方

此方ハ小正ノ方也

大陰神イナノカミ此方ニ向ヒ陰産リシサン嫁ヨメ娠マコ婚ムススヘテ婦人ノ取作ニ悛ルヘシ

○大陰ハ鎮星ノ精大歳ノ皇后ナリト鎮星ハ土星ノ異名ナリ

常ニ歳後ノ二辰ニ居スル有ニ子ノ歳ハ大陰戌ニ有リ丑ノ年ハ

亥ニ有リ余方ノ例皆尔ナリ大歳ノ皇后也有ニ婦人ノ年ニ

凶有ニ産期ニ此方ニ向フ事ヲ凶也則牛頭天皇弟ニノ皇子也

さいけいこうの方

此方ハ小正ノ方也

歳刑サイケウ神カミ此方ニ向ヒ犯土ヒトツチ穢ケガレ子コ穢ケガレニ凶シ限リミ乾兵具ヲ納メ置ニ

吉方也○歳刑ハ天ノ陰精水曜ノ精也春秋ニ歳刑ハ二歳ノ中

刑教受ルルニ禍多ク福少ク百年ニ是ヲ觴犯ヘカラスト
云ヘリ可恨則牛頭天皇弟四ノ皇子也

さいんいぬの方

むらひてまゝまゝしす
ふひのりしめす

歳破神サイ方ニ向ヒ造作移流或ハ牛馬ヲ求メ海河系船等ニ凶也
○歳破ハ土曜ノ精ナリ本歳ノ對衛スル方也一歳ノ中ニ
大歳ノ為ニ衝破セラレ有ニ破ト云フ子ノ歳ノ破ハ午ニ在リ丑ノ歳
ノ破ハ未ニ在余例皆同シ於是破ニ怪重アリ云々寅申己亥ノ方ノ
破ハ巳孟五行ノ生トスルナリ子午卯酉ノ方ノ破ハ巳仲五行ノ
盛也丑未辰戌ノ方ノ破ハ巳季五行ノ衰老トスルモノ也有ニ

寅申己亥ニ在ハ咎メナレ子午卯酉ニ在ハ怪ク凶丑未辰戌ニ
在ハ衰老在テ生盛ナクテ重ク凶也記ト移流ニコレヲ犯
向フヘカラス又牛馬ウマ方ヨリ求ムヘカラス則牛頭天皇弟四ノ皇子也

さいせりひつしの方

は方あり
よめとす

歳教神サイ方ニ向ヒ武藝始嫁娶結婚凶也但兵具ヲ納ヲクニ
吉方也○歳教ハ陰氣を毒害ノ方是ヲ教トイフ金曜ノ精モツ
ハテ怒氣サウキヲ王ル方拘滅スル方也有ニ丑未辰戌ノ方ニ運將シテ
餘方ニ不居不吉ノ方也私ニイワク丑未辰戌ハ四維ノ前辰ニシテ
土用ノ持分也然時ハ土生金ト相生ス土ノ子ノ金ナリ又金ハ

西方ヲ主リ秋氣ニ配ス秋ハ万物ヲ殺スルニ毒害ト云ヘリ
可怪事理ニテ宜ナリ則牛頭天皇第六ノ皇子也

「くろくろくろくろの方」

むくいて
くろくろくろくろ

葵幡神ヒメノニ向ヒ弓矢始獲ヲ用クニ吉方也但犯土造門御妨
ニ凶ナリ。葵ヒメノ幡ハ羅喉星ノ精大歳ノ墓ナリ万物皆生死
有リ有ニ墓アリソレ皆亡ニ歸ル者ニ丑未辰戌ノ方ニ運將
シテ余方ニ不レ行ク古ノ色ヲ主ル有ニ葵ト名ク又幡ハ獲ナリ
其形幡ヲ建ルカ如シ有ニ幡ト云又曰丑ノ墓ナリ三十
丑未辰戌ノ日ヲ以テ五墓日トス是土ヲ生スル有ナリ

此方ニ向テ立テ取ルニ不レ存也余リ答メナシト云ヘリ。秘ニイワク
羅喉星計都星トテ日道ト月道トノ交リヲ主ル星ノ名ナリ
日月道ノ交リニ重ナレハ日食ス又お向へ八月満ル時月食
有リ有ニ二星ヲ照星トス又日月五星ノ七ツニ二星ヲ加ヘ新
九曜ノ星ト名ケ陰陽表ニテオトス計火ノ三星命ヲ没
スルト云テ一ス照星トセリ易ノ卦ニテ八巽離兌ノ三卦ヲ大
切ノ卦トス是ニ射スル則牛頭天皇第七ノ皇子也
「くろくろくろの方」
むくいて大小ノフンセシチクロクロクロクロクロ

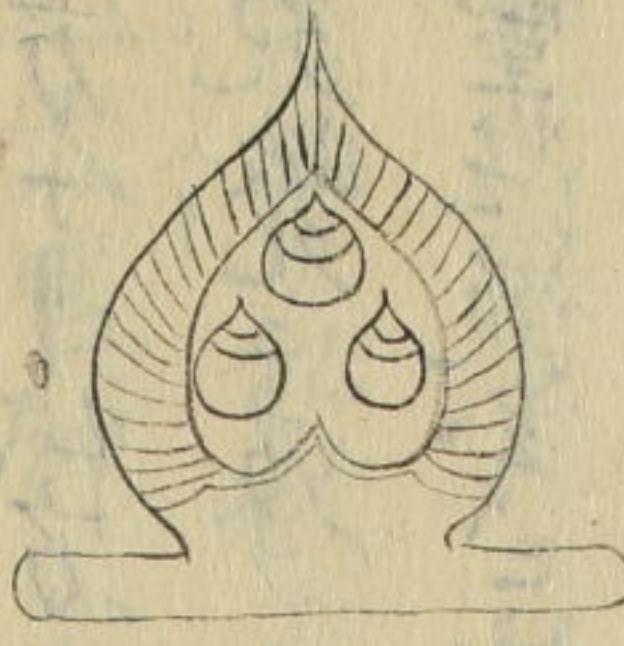
豹尾神ヒメノ此方ニ向ヒ大小便致スヘカラス尾有蓋頼求ムヘカラス

○豹尾ハ計都星ノ精莢帳コレニ射レ向フ方也亦ニ莢帳辰ノ方ニアレハ豹尾ハ戌ノ方ニ在テお射ス余歳モ又然リ其帳ノ尾ノ指靡形變動レテ速疾豹尾ノ動ニ似タリ又豹ハ以テ君子ノ象トヘアリ亦ニコレニ象也牛馬犬ノ尾有レ豹ハ方ヨリ求むガク余リハ務ケナシホキニ豹尾神ハ蛇毒氣神ハ地ニ寶大荒神也荒神ハ魄神ナリ俱生神ナリト云ミ。私ニ云計都星莢帳ニ射レ向フト云ハルニテ前後ニ至リ私叙ト見合自以アレ則牛頭天皇弟ハノ皇子也
△天官神ハ女神ニテ豹尾ノ妻神ナル毎歲豹尾ニ先タツ

方ナリ以方ニ向ハハ幸年アリ若コレラ後ニ成ス時ハ人馬共ニ死斃ニ及フト云。以天官神ハ曆ノ注ニナシ曆外ノ吉日ニ軍法流義ニ依テ方角取ニ用ユモ有リ豹尾ニ准シ以ニ出ス
△天官神ノ方。子辰申歲辰。丑巳酉歲神。寅午戌歲方。卯未亥歲方。右八將神ハ牛頭天王ノ八文皇子則春夏秋冬土用ノ行疫神也尤所至ノ方極リテ煩拓シ國去ヲ守獲シハフ京於ニライテ紙室ノ本社内陳ノ祭儀ナリ毎歲六月七日ノ會式也ニ妻ニ渡ラセ玉フ神輿ナリ
△牛頭天王トハ天道神也武塔天神也又素盞烏尊也以上四名ハ

ニシテ万軍大者也。方ニ向テ袍衣ヲ納メ鞞置始其外一切成死ノ方也。京師祇室ノ中社内所ノ中間ハ武塔天神也。六月七日ニ弟一番ニ汲ラセ給フ神薬也。是七層外名日ニテ曆ノ注ニナシ。△天徳神ハ蘇氏將來ノ別号ニシテ則祇室ノ弟一ノ末社ナリ。蘇民將來ハ巨旦大王兄也。亦ニ金神ノ方押テ各ナキト変セリ。

三鏡寶珠形



○色星玉女方 辛丙 丙癸 丙乙 巽乾 壬巽 坤辛
 ○吞生玉女方 乙甲 乙丁 甲甲 坤壬 辛坤 壬庚
 ○多願玉女方 乾庚 丁乾 庚丁 艮巽 癸艮 艮癸

三鏡寶珠形ハ曆ノ祝儀ニ先セラユカク其中央ハ天星尤色星右候多願玉女ナリ。元宮切ニ一ヶ月宛不在也。元宮切ト云フ。正月ノ宮ヨリ二月ノ宮ノ前日ニテ又二月ノ宮ヨリ三月ノ宮ノ前日ニテ次方如ク知ルヘシ。○三鏡ハ天鏡地鏡人鏡ナリ。鏡ハ明ナリ。其方ニ向キ百歩ヲ成ス。吉也。ホキニ三鏡ハ日月星ノ三光天地人ノ三才三辨寶珠ノ形ヲ以テ三鏡ヲ禮拜ス。三玉女トハ是也ト云。△色星玉女ノ方新衣ヲ着。衣ヲ裁ニ向ヘ息災ノ方也。△天星玉女ノ方洗髮如就法。新袴ニ用ユル方ナリ。△多願玉女ノ方出陣。門出舟宗如クニ用ユル方也ト云。

○座珠形ヲ画下ニ

こしとくあきの方
こむまのる方

ト注セリトアキノ方ト年
くカワリテ記ス事ハ

牛頭天王ノ后八羽神ノ母ナリ是ヲ歳徳神ト名ケ奉ルアキノ
方ト記スハ歳徳神ノ取立ナリ十干ニ随テ年ニ取立也
其所至ノ事ハ前段大將軍ノ位ニ天道天徳歳徳ト三神
テ取立ラズ取立ニ取立見ルヘシ誠ニ最上ノ存方トハ是也

○歳徳神ト方ニ向テ万事大幸有富貴自在ニシテ有徳
ノ吉方也歳徳神ハ頗梨采女也イハメヒメ縮田姫也以上三名一タケナシ軒南海
龍女ナリ京都ニヨヒテ祇園ノ内陣ノ西縁ナリ

毎年六月七日ノ令式ニ事ニ事ニ渡ラセ玉フ神輿ナリ世人少將
井神社ト崇奉ルホキニ歳徳神ハ頗梨采女也八將神ノ母
ナリ容貌美麗ニシテ怒辱慈悲ノ身也ト云

金神

カクノ如ク宝珠形ノ下版ニ記セリ金神ノ取立
年ニ移ル事也曆ノ位ニ随ヒ教ムヘシ

○金神ト方ニ向ヒ造作極訖或ハ害戸ヲ開キ万事大凶也

ホキニ令神ハ巨旦大王ノ精魂也凶魂拖行シテ南ナニ閻浮提エンプテイノ法
ノ家生ヲ教戮ス取立尤厭ヘキ者也ト云又曰令神ト方ヲ犯
セハ七人ヲ教人不足ハ隣人コレヲ慎ムナリト云ヘリ

△金神所在ノ方 ○甲巳歳午未申酉四方 ○乙庚歳辰巳二方

○丙辛歳子丑寅卯午未六方 ○丁壬歳寅卯辰巳申酉四方

○戌癸歳子丑申酉四方 来ルヲ見テ可慎方ナリ

△金神推行不断也 ○甲寅ヨリ五日南ニ在 ○丙寅ヨリ五日西ニ在

○戌寅ヨリ五日中央辰戌 ○庚寅ヨリ五日北ニ在

○壬寅ヨリ五日東ニ在 右五日ノ内八集リ居在各座明ニ也

△金神四季推行方 ○春乙卯ヨリ五日東ニ在 ○夏丙午ヨリ五日南ニ在

○秋辛酉ヨリ五日西ニ在 ○冬壬子ヨリ五日北ニ在

右五日ノ内八集リ居在各座明ニ也

△金神四季間日 春 申日 夏 申日 秋 未日 冬 酉日

右三箇ハホキニ出スト云トモミタリニ犯スヘカラスト

云ヘリ口付有リト云 但ヒ三ヶ条曆ノ注ニハカサス

土公春ハクマ 夏ハクヒ 土公神ノ座四時ニ極シテ犯スヘカラス

○春ハ竈イナヲ燃ヘカラス ○夏ハ内戸ヲ決ユスヘカラス

○秋ハ井泉イヲ掘穿ヘカラス ○冬ハ庭テヲ穿築キヘカラス

且又好ヲニアサレトモ急キ疾シニ投ユクハ春初ニ竈イヲヌリ夏ニ初ニ

門ヲ立ルハ宥ユ有リト云 四季共ニ其古キ住所ヲ破ヤルコト

ナカレ但レ庭ニ在時ハ犯ホ古各メナシ 又土公ノ府ノ地神ナリト云

△大土小土ノ次第四季ニアリ 但曆ノ註ニテ今補記ス

春

小土吉日 戊寅ヨリ 癸未ニ至テ 六日ノ日 乃土公地中ニ在
大土忌日 甲申ヨリ 癸巳ニ至テ 十日ノ日 乃土公地中ニ在

夏

小土 甲午 己亥ニ 六日 乃土公地中ニ在
大土 庚子 丁未ニ 八日 乃土公地中ニ在

秋

小土 戊申 癸丑ニ 六日 乃土公地中ニ在
大土 甲寅 癸亥ニ 十日 乃土公地中ニ在

冬

小土 甲子 己巳ニ 六日 乃土公地中ニ在
大土 庚午 丁酉ニ 八日 乃土公地中ニ在

右四季共ニ東西南北ニ土公地行シ 在ト云フハ 熱シテ地中ノ事ナリ
シテ 四方ナリ又地中ニ在ト云フハ 熱シテ地中ノ事ナリ

△土ニ次第先小土ヲ以テ吉日トスル子細ハ四季トモニ天教日ヨリ入

初ルノ謂也 唯然於産ノ時其地行ノ方ヘ向フヲ忌也 尤犯土

ニテ地行ノ方ヲ可頼也 次ニ大土トハ 土公神本宮ノ地中ニ在

向倫犯土ニ深ク嫌フ也 但生月ニ尚ル時ハ 大土ニ入前日ヨリ産湯

ノ水ヲ汲 産テ産生ノ時コレヲ産フヘシ 扱又其穢水ヲハ 大土

ノ穢ルニテ器物ニ貯 産テ大土ノ内ハ地中へ溢サ、ルヲ可トス

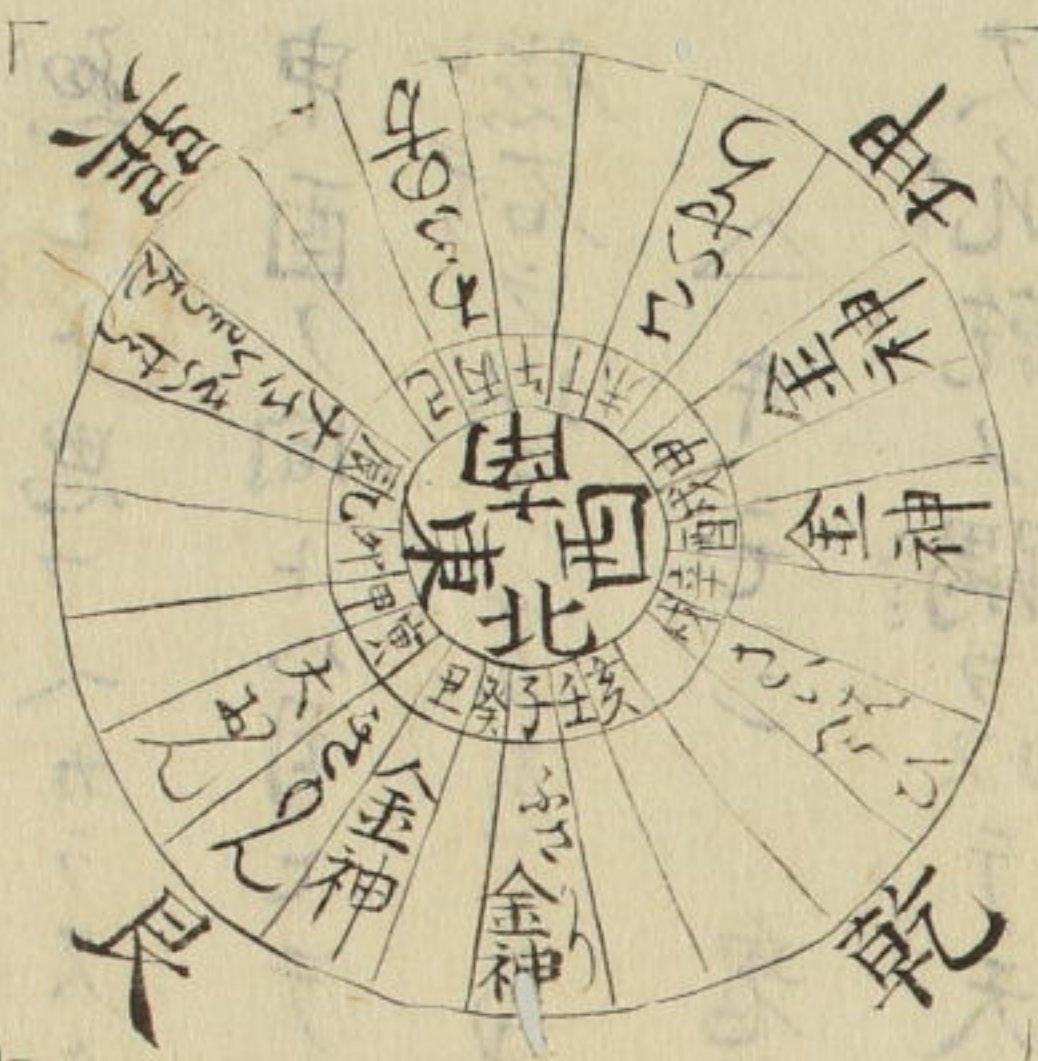
ルナリ又 冥説ニハ 大土小土ノ次第世俗ニ用ユル系回季ノカニ

ナク不^レ改ニ庚申ヨリ十日メニ尙^テ庚午ニ入^ル丙子ニテ
 七日ノ内ヲ大^トテ^テ室^シノ用ヒ次ノ丁丑一日ヲ同日ト云フナ
 ラハシ又次ノ戊寅ヨリ甲申ニテ七日ノ内ヲ小^ト名^テ大^ニ煙^ヒ
 始^テ十五日ノ間ナリト云フを^テ子^ノ乾^ニハ^スタレトモ正^シ説^ニ
 非^ス已^ニ熟^ノ久^ハ矣^説ヲ用ヒ^テハ^ハ説^ニ適^カヘシト云^フ
 △土公变化 ホキ 追加ニ云ク四季ノ土用ニ就^テ犯^ス土^尺寸^矣ナリ

○春ノ季九尺底ニ沈^ルワ ○夏ノ季三尺
 ○秋ノ季七尺 ○冬ノ季一尺

正月小	二月大	三月大	四月小
五月大	六月小	七月大	八月大
九月小	十月大	十一月大	十二月小

如^ク九^ノ考^ノ九^ニ記^スハ曆^ヲ末^ニテ
 見^スシテ^ハ大^小ヲ知^ル為^ナリ



ハ考^ハ一^ワリ^ラ北^ニワ^リ四^隅ヲ^アケ^テ四^維
 ニ配^シ乾^艮巽^坤ト^記シ^テ残^リ二十^三支^ニ
 ヲ配^シ其^ハハ^ツ二十^十ヲ^配分^スル^時戊^己
 ノ二^千ヲ^餘ク^ハ二^千ハ^中央^ノホ^ヲ主^ルル^ニ
 四季^ノ土^用ノ^持分^トス^ル也

考^中ノ十^千十二^支ハ不^レ易^也ハ^ハ神^金神^歳德^神ハ^年ノ順^ヲ
 之^テ不^レ在^テ始^リ大^ヲ軍^ハ一^方ニ^三年^ヲ右^守護^シキ^ヲ甚^キ年^ノ

唐ニ過テ又ルヘシ但令神ノ方ヲ又ルニ心巧遠ニ有ヘシ
外巳巳年金神午未申酉ト四令神並フ也午ヨリ酉ニテノ及
忽シト思フヘカラス各正方ニ在在ニ午未ノ間ト未申ノ間ト
申酉ノ間ト八月ヒテ始ナシト云方ト云フハ自方ノ岳有ラズトシ
礎石ヲ以テ方角ノ角ヲ又シヘシ備ナカラレテ年ニ六除カケレ可慎也

△キモシ 鬼門ト書ナリ

大凡乾ノ隅ヲ以テ天門トス坤ノ隅ヲ以テ人門トス巽ノ隅ヲ以
風門トス今艮ノ隅ヲ以テ鬼門トシテ第一造作後院ニ
基原少 恐懼ノ方ナリ若ク隅ヲ犯漫射ハ其禍殃スルト

上ル事世人ノ知ル新ナリ去ホトニ比叡山ハ王城ノ鬼門
タルニ因テ余多ノ旅徒ヲ置テ天下安全守護ノ靈峯ト
定メテワイワンヤ万民慎ガルヘケンヤヨツテ良ノスミニハ
桃樹ヲ植テ沼連ヲ引清淨ヲ抽ニスヘキ土地ナリ然ルニ
此地ニ則テ造リ或ハ塵垢ニスルノ族有ル五ナル業成ヘシ
山海經ニ云ク東海夜朔山ニ大桃樹アリ暖屈スル年三千里
其昇枝東小ニ向フ万鬼コレヲ出入スコレラ鬼門ト云フニ神
アウ一ハ神奈ニ六野云ト云フスナハチコレヲ名領ス
夜鬼ノ出入ヲ又テ蛇テ蝦テ虎ニ飼フ是ニツイテ黄帝法家

あし因テ桃板ヲ門立ニ立テ上ニ神荼鬱壘ヲ画テ以テ凶鬼
ヲフセクトイフ支鬼門トハ斯ニコレヲ謂也 **海外經**ニイワク
東海ノ中ニ山有リ名テ度索ト云フ上ニ大桃樹有リ
燻スル一三千里東山ニ門アリ名テ鬼門ト云フ万鬼ノ
聚所也天帝神人ヨシテコレヲ守ラシム一名ハ鬱壘
万鬼ヲ闕シ領スル事ヲモル爲人ヲ害スル鬼有ル時ハ
薄涼ヲ以テ射射イルニ桃弧ヲ以テ虎ニ投ラテ食シム也
△二十四氣七十二候ト月大小ト閏月ト日食月食ト事
○二十四氣ト云フハ一月ノ指分ニ中ト云フニワサカ名ナリ

其根元ハ今年十月中冬至ノ刻ヨリ翌年冬至ノ刻ニ至
日數量リテ三百六十五日廿四刻二十五分ヲ得テ歲周ト名ク
是ヲ二十四ニ割テ一氣ノ指分十五日二十一刻八四分廿七秒半
氣策ト名テ算スルナリ一氣策ヲ倍シ重テ六十日ニ
十レ引テ其餘ニ又氣策ヨリテ知ル事也次ニ其氣ノ
時刻ヲ求ムル也又次ニ六十甲子ニテ十干ヲ附ル所ノ注ニテ又
立春正月廿四日ノ刻日ノ出方日ノ令 昼四十二刻余 夜五十七刻余 六方 昼四十七刻余 夜五十二刻余
立春ニ由ル日ノ昼夜ノ刻八別ニ備アツテ知ル事ナリ日ノ出
ヨリ日ノ入ト云フハ日輪ト名地平ヲ越ルヨリ又日輪ト名地平ニ

入刻分ヲ居ノ刻トス以テ一層敷百刻ヲ引其折ヲ夜ノ刻ト
スル一層敷ノ定法ナリ其層夜ノ刻ノ知リヤハムカシ
黄帝漏水ヲ創設ヲ制シ層夜ヲ分或云ニ六掣壺氏ト云フ
人百刻ト定メ層敷ヲワカツ今ニ至テ改申ナシト百刻ヲ十
ニ支ニ配分シ一支ノ時分八刻三十三分余トス又是ヲ二ツニ
ワケテ四刻十六分余ヲ初ト名ケ次ノ四刻十六分余ヲ正ト名ケ
今ノ時ヲ折ハ夜子ノ時正ノ初刻ニ九ツ打層午ノ時正ノ初刻ニ
九ツ打ナリ余支皆同シ今モ漏水ノ師傳有リ層敷ノ刻
北極高下ニ随テ是刻ニテモ異也唐ニハ其申分ヲ出ス也

十一

扱又時計ノ刻ハ百七刻トス一時十刻之ハ法モ漢ノ哀帝ノ代
ニ八一層敷百二十刻トスルヨシ又ヘタリ
○六ヨリ六ニテト有ル層敷刻五刻多シ夜ノ刻五刻少シ
ハ五刻層敷ノ刻ヘスル事ヲ弁ス 扱晴天ノ扱時ニヨク光ル星ノ
ハラクト又工時朝ノ六ツ打ヨリ日輪ノ地平ヲ分分出ル
一テノ刻限被漏水ニテ又レハ二刻ナリ又日ノ入モ右
ノ一ツ打光星ノハラクト又工時暮六ツ打光モ二刻有
コレヲ昏明二百五十方ト名テ一層敷ニ用ユルニ合テ五刻ハ
毎日層ノ刻へ入ル事ニ随テ四刻ノ刻限年々同シ申ト知ヘシ

△七十二候ト云フ事ハ前ノ一氣ノ初ニ十五日二十一刻余ヲ以テ
 名ケタリ五日ヲ一候ト唱一氣ヲ三候トス日ノ下ノ余分ハ
 カニハナルソ是ヲ北四候ニテ七十二候ト成ル日數三百六十日也
 △月ノ大小ト云ル事大ニ述ル事ハ曆算ニアラサレハ知
 カタレ丈一ヶ月平均ニテ日數二十九日五十三刻令五分九
 十三秒ヲ朔算ト名テ曆算ニ用ユ又十月ノ初日ニ尚ル
 日數ヲ申子ノ日ヨリ何日目ト云事ヲ以テ經節ト名ケ
 是ヲ平トシテ其上ハ彼朔算ニツニ割タル日數望算ト名
 テ一ツカヘテ經望又一ツカヘテ次ノ經節ト成ニ重テ六十日ニ

ナレハ其經節ト云フ事ハ前ノ一氣ノ初ニ十五日二十一刻余ヲ以テ
 名ケタリ五日ヲ一候ト唱一氣ヲ三候トス日ノ下ノ余分ハ
 カニハナルソ是ヲ北四候ニテ七十二候ト成ル日數三百六十日也
 △月ノ大小ト云ル事大ニ述ル事ハ曆算ニアラサレハ知
 カタレ丈一ヶ月平均ニテ日數二十九日五十三刻令五分九
 十三秒ヲ朔算ト名テ曆算ニ用ユ又十月ノ初日ニ尚ル
 日數ヲ申子ノ日ヨリ何日目ト云事ヲ以テ經節ト名ケ
 是ヲ平トシテ其上ハ彼朔算ニツニ割タル日數望算ト名
 テ一ツカヘテ經望又一ツカヘテ次ノ經節ト成ニ重テ六十日ニ

ヲ引テ姑ク定額トシ時列ヲ求ム経望モ同シ仕方也次ニ定額
ニ六甲ノ干支ヲ附ル其月ノ干ト次ノ月ノ干ト同シキモノハ
其月大トシ同シカラサルモノハ其月小トス一ヶ月ノ内ニ中氣
ナクハ閏月トスル也扱次ニ一々年ノ大小ニ因テ日教ヲ算
算ノ奈^{チカク}諸年号ノ下ヲ誌^ス也

△閏月ノ出ル年^{アラハ}一々年ノ日教及ヒ分ナリ扱又^ハ扱ニ
分秒ヲ置テ十二月ヲカクシハ三百五十四日三十六刻七十分
十六秒トぬル也一々年ノ日教及ヒ分ナリ扱又^ハ扱ニ
誌ス今年冬^ニヨリ扱^ス年冬^ニ至^ルテノ歳^ノ三百六十五日

二十四刻二十五分ヲ置テハ^ハ一々年ノ日教及ヒ分秒ヲ
引ケハ^ハ秒リ十日〇八十七刻五十三分八十四秒トぬルコト
通^ツ閏ト名テ一々年ノ閏ノ日教トシテ^ハ算^ス年ニ用ユルナリ
三年後ニテ一々月ノ閏トス^ル也^ハスレハ五々年ニ閏月
ニナリト云ヘリ閏月ノ出ル大^ニカクノトシ

△日食ハ^ハ日ニ限ル日輪ノ道^ノ第^ニ黄道ト名テ高クカ^ルル
月輪ノ道^ノ第^ニ白道ト名テ日道ノ下ニカ^ルル白道ハ^ハ黄道ト輪
遠^ニニ^ハ加^ルリ^ハ黄道ト内外六度アリ其遠^ニ日ノ^ハ月^ノ黄道ノ北
ヨリ南^ニ出^ルラ^ハ正^ニ交ト名ケ南ヨリ北^ニ入^ルラ^ハ中^ニ交ト云フ其^ハ正^ニ交ト

中交トノ兩ニ
ヲ引テ其ノ定約日高レハ日食ス假令一尺ノ鏡ヲ上ニ約リ
七寸ノ鏡ヲ下ニ約リ其下ヨリ又ルカメシ是十方ノ日食也
月ノ影ハ日ノ影ヨリ小キエ十方トイヘトモ日光余ルナリ
日モ月モ天ノ行ニ遅テ西ヨリ東ニ轉ス是ヲ右行ト云フ
然レトモ月ノ行速キエ一列限少ク約キ是レ是ヲ後行ト
云フ東ニ行テ約ハ十方ノ食ナレハ西ヨリカケハレメ東ニラワル
△月食ハ十四日十五日十六日ト三日ノ内ナリ月食スルトハ
彼中ニ交ノ系ニテ日月相向ハ六月朔ハ地影ノ中ヲ通ルニヨリテ
日光ヲ遮テ光ヲ受ス是ヲ食ト云フ地影ノ系中ニ高レハ五分ノ

食ト云フ月食ノ事ヤ日食ト及セリ故書子ノ刻ニ月食スレハ
日輪地ノ下ニ有地影ハ天ノ行ニヒカレテ東ヨリ西ニユク月ハ
西ヨリ東ニ轉スルニ至テ月影ノ東ヨリ西ニ轉スル方ニラワル
假令一尺ノ鏡ヲ下ニスエ九寸ノ手鏡ヲキツシト紙ノ袋ニ
入レ其袋ヲ地影トシテ袋ヲ上ノ方ニ置ルヤウニ真中ニ釣
又六寸ノ鏡ヲ真中ニ當ル地影ニ釣テ置也次ニ人ハ地上
ニ立ル影ノ中ヨリ見ル影ハ夜ナリ然ル時ハ月影日光
ヲウケスレテ無糸色ノ玉ノヤウニ見ユルニテ索スヘシ
是十五分ノ食ヲ云フ者也日食月食共ニ南中ヲ取テ述也

○常々朔日満月ニ食ノナキ事ハ彼正中ニ交ノ暁ニ當リ
合朔ニ向望スル日道ト白道ト摺リ遠ヒ地影ノ外ニ
尚ルニ因テ食スル事ナシ且前段ハ神ノ注ニ并スル羅
曠星計ヲ星ト云フハ黄白五道ノ交ヲ守護スル星也白道ニ
レノ才交ト云フ有四ヶ所ヲ取テ悉字羅計ト名テ宿交ヲ
推歩シ七曜曆ニ誌ス早竟白道交圍退ノ替名ナリ
○曆術ヲ推歩シ十干ニ因テ合朔二十四氣土用日月ノ食等ヲ誌
スハ曆学者ノ所作也曆ノ癸卯宿曜率極ノ建中以下版
又真中二十三ヶ条等ノ選日ハ天文博士ノ徳和ナル也

正月ハ建甲寅星宿值月 室宿火曜值朔日

毎月如ク誌シテ八重ナル正月ノ下ニ以余月ハ值月恒朔日五字
ヲ畧セリ以例ニ随フヘシ 建甲寅 今俗ニセヤウトモ又破軍星ト
モ云フ實ノ名ハ小計ト云ヒ俗ニ釵先ト云フ星ハ揺光ト云フ也
以斗柄ノ寅ノ方ニ指ラテ觀テ歲首ヲ定ム今ノ正月是ナリ
毎歲同シ往昔段ノ世ニハ丑ノ方ニ建ヲ以テ正月ト寸今ノ十二
月ニ當ル周ノ時ハ子ノ方ニ建ヲ以テ正月トセリ今ノ十月ニ
アタル魏ヨリ以來夏ノ時ニ後シ寅ノ方ニ建ヲ以テ歲首トス
今ニ至テ改事ナシ又寅ニ建ヲ以テ正月トスルハ民ノ

農除ヲ考テ世ニ改メタラケル彙ニ建ト云フハ正月朔日
初昏トテ其六ツ打時ニ斗柄宮ノ宮へ建ラ云フ其夜ト
翌旦ト合テ一昼夜百刻天道左旋スレハ日輪ハ逆テ一
右行シタモフカニ其翌日初昏ニハ一夜進ムメ代三十日ヲ
テ二月朔日初昏ニハ次卯ノ宮へ建ラニケ月ヲ旋テ又四月
寅ニ建ラ万代不易也○但一々年ニ十二月ヲ旋テ元ノ
宮ノ宮ニ降ルト云フ時ハ今年ノ閏月有ルニハ十三宮ニナリ
身ハ己年正月八卯ニ建シ然ルニ建丙寅トナリメ何ト不審
記ルハ其所以ヲ希ス蓋日月ノ運行ヲ測リ天度ヲ知ルハ

日教ノ根元トシ列方ヲ得テ歲周三百六十五日四刻五分ト定テ
二十四氣ニ配分ス通閏十日〇八十七刻余有ルニ合朔氣ニ
進退スルニ閏月ハ其月ノ持分ト成ル二十四氣ニ因テ見
レハ寅ノ宮へ歸ル事ハ也曆ニモ **隨節用之**ト志斗柄ノ
延ト月ノ宿トノニケラ陰也配分ノ根元六六三百六十日ニ依テ也
星宿值月 是ハ天ノ二十八宿ヲ毎年十二ヶ月ニ配高ルル時ハ
ハ二月ハ星宿ニ值月ト云フ事也亦二月ノ下ニ張宿ト順ニ
アリハニ值字ヲ置ハ月ニ配分ノ宿ト云フ事也月ノ宿配分
貞享二乙丑ノ年ヲ曆元トシ順ニメル也

室宿火曜值朔日 乞八二十八宿ニ七曜ヲ配尚シテ曆元ヨリ

日教ニ配分 其月ノ朔日ニ尚令宿ヲクリ出シテ誌也 曜ハ

宿ニ准シテ出ルヤウニ配分シテ正直ニクリ合テ知ル也 算用

ニテハ六ヶ数エケリ安キ者左ニ出シ北八宿ノ順ヲ誌ス

東方七宿 角亢氐房心尾箕 七十九度二分

北 斗牛女虚危室壁 九十三度八十分

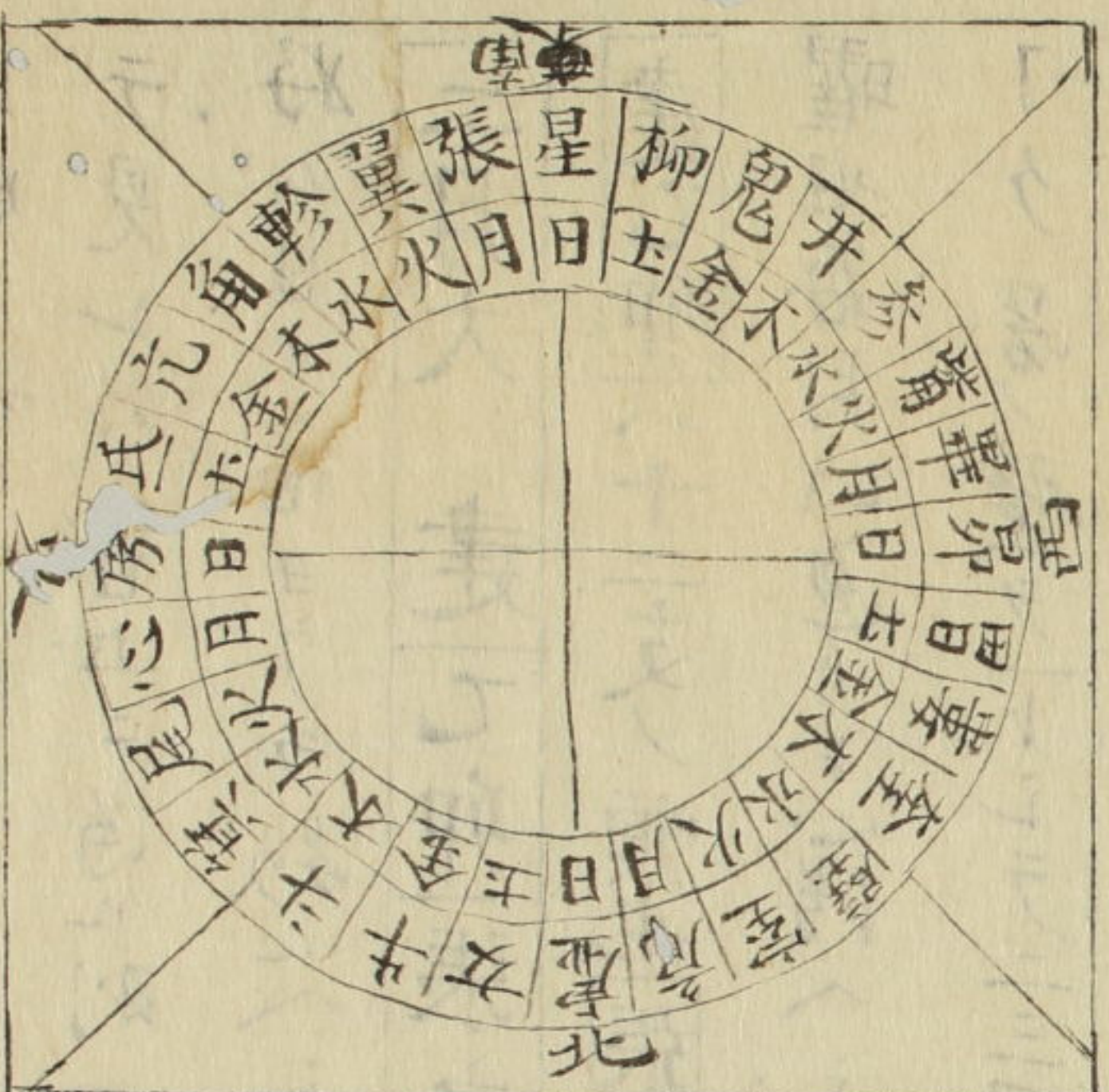
西 奎婁胃昂畢觜參 八十三度八十分

南 井鬼柳星張翼軫 一百〇八度四十分

右二十八宿ヲ定テ天夜三百六十五夜ニ五令七十^五枚ヲ本源トスル也

△七曜ノニヤリ 日月火水木金土

前ノ二十八宿ニ七曜ヲ配分シテ宿曜ノ名ト名クル也



正月朔日ノ宿ハ前ニ記ス 互リ

室宿火曜 トアリタトヘハ正月五日ノ

是ノ外ノニヤリ二十八宿也内ノマワリハ
七曜也其配分ハ朔日曜ヲ虚宿ニ配
シテ月火水木金土ト順ニ誌シ七曜
四ハニメクリハ七九八宿終也
虚宿ヲ始トスルハ演紀上元トテ僅^{ムカシ}昔日
月五星連珠トテ貫^{ツラヌ}キ終^カルヲ始トスル也

宿曜ヲ知ルニハ巳ノ室ヲトシテ左へ順ニ二三四五トクニ
テ見レハ巳トニ為ル則胃宿土曜ナリカクノコノ心得テ
好ム日ノ宿ヨウヲ知ルヘシ。○又次ノ二月ヲ見レハ

二月大 建乙卯張宿

壁水（のく）

建乙卯 八十二支ノ順也 張宿 八月ノ宿也 壁水（のく） 八日ノ宿
曜也 毎月けりト心得ヘシ 又三月七日ノ宿曜ヲ知ルニモ
一ノ夕ノ壁ヲトシテ二三四五六七ト左へ順ニカソヘセニテ
又レハ此角火ニ為ル則此角宿火曜ト知レシ也

二十八宿七曜吉祥ノ夏

宿曜經ノ説ヲ出シ次其宿ノ巨細ヲ
出シ又次ニセヨウノ名ヲヒス也

宿曜經曰

○牛宿ハ吉祥宿タリ 則毎日午ノ時ニ為ル 乃申午ノ時
ヲ以テ名祥トスヘシ 〇畢翼斗壁ヲ安住宿トス 巳等ノ宿ニ

直日 宮殿伽藍 館宇 寺舎ヲ造リ 旣蔭 婚姻 家具ヲ造リ

灌頂等ヲ受壇ニ入ルニ吉也 〇觜角房奎ヲ如吾宿トス 巳

宿ニ直日ハ伎藝ヲ學ヒ 直言ヲ智ヒ 灌頂ヲ受 婚姻ヲ求メ

後シアケ 君王ニ對シ 將相ニ系シ 冠帯レハ 彼業ニ吉也

〇參柳心尾ハ 惡害宿トス 巳等ニ直日ハ 城ヲ圍 兵ヲ徵

賊ヲ略 陳交リ 款ヲ破ルニ吉也 〇鬼軫胃婁ヲ急速宿トス

巳宿ニ直日ハ 進洛出洛 學ニ入り 業ヲ受 業ヲ終シ 道場ニ入

流頂等ヲ受ルニ名也。○星張箕室ハ猛惡宿トス。ハ宿ニ直日ハ
膾ハミ天ヲ祭リ神ヲ祀リ兵威ヲ求ルニ名也。○井亢女虛危
ハ凶宿ハ輕躁宿トス。ハ宿ニ直日ハ象馬ニ余キヲ学ヒケイキ維キ存キ
彼業等ニ名也。○昴氏ハ剛柔宿トス。ハ宿ニ直日ハ家具ヲ
造リ送葬ノ火ヲ鑽入宅王者盟會等ニ名也。以上

角木性 妻子惡宿。又云ク新衣ヲ了ス衣ヲ裁酒ヲ造リ元彼
烏帽子キ袴ヒ忌婚取ムコ龍伏地曳ハシラステ番ヒキ近セウ始シ屋立後ウツ流シ門立
要害ヲ等具足ヲ造リ倉立井掘竈塗入部地入出家
堂塔供養宮立橋掛カキ殿送リニ名也。又曰造作スレハチ末セウ目メヲ

主シ嫁娶婚姻スレハ貴子ヲシト云

亢火性 業有宿。又云牛馬ヲ狗嫁娶ケウ結婚ニ名也。○又曰裁衣
スレハ食ヲ得ケ婚ケ交カフ種カフ蔣ニ名也

氏火性 富性宿。又曰嫁娶要害ヲ等門立出陳入部ニ名也
ハ宿ニ生者君王ノ寵愛ヲ受財和富饒ニシテ利智リチ必キ口ニ足ト云

房水性 富貴宿。又曰神事灌頂行法フ了シ事ニ名也。又曰小旗
ヲ造リ棟上嫁ケ妖ケ裁衣出家堂塔供養シ陽キ拓キニ名也。又曰ク
造作スレハ思シ求メ外性ノ田宅ヲ拓キテ富貴榮シ祀福壽也。又曰
ハ宿ニ生ル人ハ威徳有リ男女ニ足リ錢財チ饒チ十シリト云

心火性 喜多宿千倍 又曰移徙軍陳 爲帽子 忌要害ヲ導門立
入部 劫地入 出陈沙汰ニ名也

尾火性 富智宿 又曰合菜軍陈入部 劫地入名也 又云造作

スレハ天恩ヲ得家共榮茂婚姻スレハ貴子ヲ生ス 又曰け宿ニ
生ルハ衣食ニ足リ庫苑多ク外ノ財力ヲ得テ吉星也

箕金性 無財宿 又云地掘裁衣細財等ニ名也 又田舎ヲ造リ

渠水ヲ開キ花菜ヲ種シミホ庭圃ヲミホ修スルニ宜ト云 又曰け宿

ニ生ルハ人ハ人トナリ辛苦ニタ病多ク酒ヲ老スト云ハリ

斗土性 不家宿千滅 又曰新衣ヲ忌シ地掘倉立ニ名也 又曰

